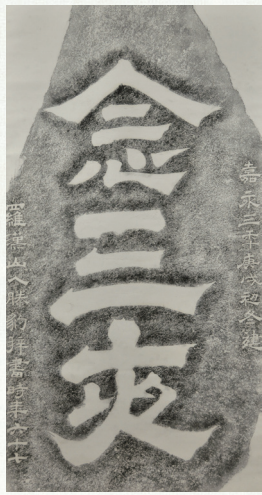


身近な文化財

第七話

月待ち講



▲念三夜（二十三夜）
碑拓本
（市歴史民俗資料館蔵）



▲第五話はこちら
（市ホームページ）

☎文化財課 ☎2310

現在はあまり行われなくなつてしまいましたが、町や村には「講」と呼ばれる集まりがあり、それぞれ決まった時季に会合などの催しをおこなっていました。講の一つとして「月待ち講」があります。本来は月の出を待ち、月を拝む行事ですが、集落では娯楽の集まりとしての意味合いも強かったようです。

比較的盛んだったものとして「二十三夜講」があります。単に「三夜」「念三夜」などと呼ばれ、決められた月の23日に行います。時季は地域によってさまざまで、10月、11月、12月、あるいは毎月行うところもありました。

この二十三夜講は多くの場合、青年たちの集まりでした。夜に集まって月を拝み、餅をついたり飲食をともにして交流します。また「十九夜講」は、主に女性の集まりでした。安産などを祈願するとともに、みんなで飲

食をします。地域の女性が集まって話す貴重な機会であり、今でいう女子会のような楽しみみであったと思われる。

以前に第五話（8月号）で紹介した石仏は、こうした講の記念として建てたものです。石仏以外の石造物も、あちこちに見ることが出来ます。

写真は、市内の鍛冶町にある「二十三夜塔」「二十三夜講の記念碑」の拓本です。

実物は、嘉永3年（1850）に建てられたもので、高さ2mを超える巨大な石碑です。文字を書いたのは、白河在住の画家・蒲生羅漢（1784～1866）です。このような立派な二十三夜塔から、地域で講がいかに盛んであったか分かります。

身近な文化財の一つとして、市内に点在するこうした石造物にも目をとめてみてはいかがでしょうか。

～自河の景観を守り・つくり・育てる～
景観まちづくり通信 Vol.7
☎本庁舎都市計画課 内2232

おすすめ景観募集中！
日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をInstagramで教えてください。
※詳しくは市ホームページへ

今月号は「景観学習事業」をお知らせします。誇りと愛着を持つことができる美しいまちをつくり、育て、次の世代へと伝えていくためには、子どもの頃から身近なまちや良好な「景観」に対する興味や関心を引き出し、ひとりひとりの景観やまちづくりに対する意識を高めることが必要です。

そのため、市では、平成29年度から日本大学工学部の協力をいただき、小学生を対象とした「景観学習事業」に取り組んでいます。

景観学習事業では「気づく」「調べる」「考える」「行動する」という一連の学習過程を想定し、身近な景観に気づくことに始まり、現在のまちの景観がなぜそのようになっているのか調べ、今後、どのようなまちにしていきたいのか考え、自分でもできる「景観まちづくり」の具体的な行動につなげていくことを目標としています。

～景観学習事業の流れ～
気づく ⇨ 調べる ⇨ 考える ⇨ 行動する

景観を知ろう！ （講義）	まち歩きで気づいたことを、レポートにまとめよう！	グループで発表しよう！ 景観まちづくりに取り組もう！
-----------------	--------------------------	-------------------------------

～参加児童の感想～

白河の古い建物や歴史ある建物を発見することができてよかったです。

普段は車で気づかずに通り過ぎていたけど、歩いてじっくり観察するとたくさんの景観があつてすごいと思いました。

※今年度の景観学習事業の様子は、本紙8ページへ